

石川県

研究協力校（課程又は障害種）

- ・石川県立明和特別支援学校（知的・肢体）

研究の成果

観点Ⅰ：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

Ⅰ. 児童生徒の「つきたい力を考えるシート」の作成

本県の特徴は、まず、実践研究を行うにあたり、研究協力校で、学部ごとに児童生徒の将来の自立におけた目指す姿を学部目標から見直しを行った点である。また、新しい時代に求められる資質・能力を「つきたい力」として捉え、新学習指導要領を踏まえた各教科等の内容等を、各学部の児童生徒の発達段階や実態に応じた「つきたい力」を明確にする取り組みを行った（資料1）。その際のツールとして、各学部の教科等の学習グループごとに「つきたい力を考えるシート」（資料2）の作成、活用を行った。

本シートを作成するにあたって、平成14年度に作成していた指導内容表における3つの課題を意識しながら取り組んだ。第一に、単元（題材）ありきで、児童生徒の目指す姿が見えないこと。第二に、単元（題材）の目標が「知識」及び「技能」の内容に偏っていること。第三に、学習評価の項目が設定されていないことである。

そこで、本シートを活用し、「つきたい力」が身に付く単元（題材）の選定を考え、「知識」及び「技能」の内容に加え、現在や卒業後の生活につながる単元設定や「思考・判断・表現」を高める目標設定に広げた。本シートでは、「つきたい力」を意識できるように、シート内の配置を、左から「つきたい力（ねらい）」→「単元及び学習活動」→「指導及び支援内容」→「評価方法等」という枠組みにした。

特に、「つきたい力を考えるシート」を作成する際には、シートを仕上げることを目的化してしまわないよう、授業づくりの「視点」を共有するためのツールであることを校内で共通理解した。ヒアリング時においても、シートは継続的に随時更新し続けるものであり、最終的に各授業に新学習指導要領の視点が反映されることを目的としていることが強調して語られた。こうした成果を、公開の実践研究授業や研究協議会等を通じて、県内の特別支援学校にも情報共有を行っている。

知的高等部「つきたい力を考えるシート」年間目標(1年でつきたい力)一覧 <数学>					
観点	内容	数と計算	図形	測定、変化と関係	データの活用
産業技術コース	思考・表現・判断・	<ul style="list-style-type: none"> 一定の重さになるようにパック詰めをする 調理に必要な食材を考える 割り勘について考える 金額に合わせて商品を選択する 予算内で商品を選択する 割合、割引について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の種類によって分類する(三角形、四角形、台形、平行四辺形、多角形、円) 図形を組み合わせて、他の図形を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の開館時間の調べ方を考える 様々なものの長さを目測で判断する 自分が持てる重さの限界を判断する 重さと量の関係を考える 予定から出発時刻や到着時刻を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 表を読み、活用する 求人票から給料を読み取る データから必要な情報を読み取る
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 1000円からの引き算を暗算でする レシートの見方がわかる だいたい合計金額がわかる こづかい帳をつける記入する 買い物する店を調べる 伝票の見方がわかる 郵便の料金がかかる 小包の送り方と料金を知る 合計金額とおつりを計算する 買いたい物の金額を調べる 割合の計算方法を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形、四角形等の多角形の形を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 長さ、重さ、量を測る スケジュール管理をする インターネットで様々な情報を調べることができることを知る 時間の単位変換をする 時刻表の見方を知る 時刻表に合わせて経路図を作成するを読み取り適切な時間を選択する 物の数を数える 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの種類を知る グラフの書き方を知る(円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ)
A	思考・表現・判断・	<ul style="list-style-type: none"> 金額の大小を判断できる 金額に合わせて商品を選択する 予算内で商品を選択する 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の種類によって分類する(三角形、四角形、台形、平行四辺形、多角形、円) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なものの長さを目測で判断する 自分が持てる重さの限界を判断する 重さと量の関係を考える 設計図を確認し、ものづくりができる 距離に対する時間の感覚について考える 予定からスケジュール出発時刻や到着時刻を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 表を読み、活用する 求人票から給料を読み取る データから必要な情報を読み取る
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 貨幣、紙幣の金額がわかる 合計金額と電卓を使っておつりを計算する 買いたい物資料から商品の金額を調べる 小遣い帳を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形、四角形等の多角形の形を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 物の数を数える 長さ、重さ、量を測る 時間の単位変換をする 時刻表の見方を知る 時刻表に合わせて経路図を作成するを読み取り適切な時間を選択する 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの種類を知る グラフの書き方を知る(円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ)
B	思考・表現・判断・	<ul style="list-style-type: none"> 10の合成、分解をする 数の大小を判断する 	<ul style="list-style-type: none"> 構成する素素を生活の中で探す 		<ul style="list-style-type: none"> グラフを見て、結果を考察する
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生活で使われる加法・減法の計算をする 卒業後に一人で簡単な買い物ができるようにお金の計算の仕方を習得する(10円、50円、100円) 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形、四角形の形を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な長さを測る 生活に必要な重さを測る アナログ時計から時刻を読み取る 	<ul style="list-style-type: none"> データをグラフに表す

資料1 知的高等部「つきたい力を考えるシート」 年間目標(1年間でつきたい力)一覧 <数学>

知的障害教育部門 中学部「つきたい力を考えるシート」									
教科・領域	国語	学年・類型	3年 B 類型	【グループ】	①グループ	授業時数	105		
年間目標(年でつきたい力)	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことや考えたことについて順序を整理して文章を書く 相手や内容に応じて経験したことや自分の考えたことを発表する 説明文や物語の内容、場面の様子、登場人物の気持ちを理解して読む 								
月	時数	つきたい力(ねらい)	単元及び学習活動	指導及び支援内容	評価				
4	25	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や物語に親しみ、本に興味を持つ【関心・意欲・態度】 好きな本を自分で見つけて読むことができる 		<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使って場面ごとに詳しく取り上げる 何に興味があるかを語り、一緒に本を探す 	ワークシート 行動観察、発言 【関心・意欲・態度】				
5		<ul style="list-style-type: none"> 本や絵本に親しむ 「読む」内容の活動を通し言語活動を充実し、言語感覚や論理的な思考力や想像力を身につける 	詩や物語を聴く、 説明文を聴く、 読み聞かせの会本の紹介をする 詩や古文等を群読する	<ul style="list-style-type: none"> 内容に関する図や写真を用いる 	発言 ワークシート 【知識・理解】				
6				<ul style="list-style-type: none"> ワークシートで自分の感想を記入する先にまとめる、小グループを作るなど、意見を言い易い状況を作る 	発表 【技能】				
7		<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせの会で相手と伝わるように読む【技能】 文章を音読できる 		<ul style="list-style-type: none"> 全員で読む、友達と一緒に読む、前に出て読む等変化をつける 	声の大きさ スピード 【技能】				
9	25	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉や書き言葉について知る【知識・理解】 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面を視取り上げて言葉の違いを理解できるようにする 	ロールプレイ、 ワークシート 【知識・理解】				
10		<ul style="list-style-type: none"> 経験したことや考えたことについて順序を整理して文章を書く 「書く」内容の活動を通し、言語活動を充実し、論理的な思考力や想像力や言語感覚を身につける 	経験したことや考えたことについて順序を整理して文章を書く【思考・判断・表現】【技能】	<ul style="list-style-type: none"> 写真等を見て思い出しながらワークシートを使って思い出した経験したことを箇条書きにする 	作文 【思考・判断・表現】 【技能】				
11		<ul style="list-style-type: none"> 言葉並べて文を作る 文章の構成を知る【知識・理解】 	言葉について知る 作文、感想文を書く 文を作る 手紙や日記を書く	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成の学習をする作文ゲーム等で楽しみながら言葉の役割について学べるようにする 	発言 言葉の使い方 【知識・理解】				
12		<ul style="list-style-type: none"> 手紙の書き方を知る【知識・理解】 手紙を書く時に、伝えたいことは何かを考える【思考・判断・表現】 		<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝えたいことは何かを明確にしてから手紙を書くように伝える 	手紙の内容 【思考・判断・表現】				

資料2 「つきたい力を考えるシート」

※黒字は平成29年度以前のもの、赤字は平成29年度。

観点 2 :

教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2. 「つきたい力を考えるシート」と教育課程をつなげる取組

平成 29 年度は、次年度以降の教育課程編成への活用に向けた「つきたい力を考えるシート」の土台作りとして位置づけられる。

平成 29 年度以前の指導内容表には、評価方法等を記入する欄は設けられていなかったが、平成 29 年度より本シートに「評価方法等」の欄を作成した。この作業によって、単元（題材）ありきで目標やねらいを設定していたという課題に対して、「つきたい力」から評価について検討するように意識が変わっていった。

また、平成 29 年度に共同研究者として招聘した国立特別支援教育総合研究所総括研究員（現神戸親和女子大学准教授）武富博文氏から、「つきたい力」が身に付く授業づくりのためには、さらにカリキュラム・マネジメントを意識することが大切であるとの助言を受けた。学校目標、教育方針等と指導内容の関連を図ることや他教科との関連を教員一人ひとりが「カリキュラム・マネジメントの視点」をもって取り組むことについて、具体策を検討した。まず学部目標から国語と数学等における「つきたい力」を考え、指導案作成時に「他教科との関連」（資料 3）を明記することを試行的に取り組んだ。

○○部門○○部 学年 組 科学習指導案

日 時：平成 年 月 日（ ）第 限
 ○○：○○～○○：○○
 授業者名：職・氏名
 （複数の場合、チーフに○印）
 場 所：
 対象児童（生徒）：

1 単元（題材）名 □□□□

2 他教科等との関連

関連する教科等名	単元（題材）名	関連する内容

3 本時（総時数○時間中 第○次○時）

(1) 小単元名（題目） □□□□

(2) 本時の目標
 ・ □□□【知識・技能】 【思考・判断・表現等】 【学びに向かう力・人間性】
 ・ □□□

(3) 準備・教材等
 □□□

(4) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・支援	評価規準 【観点】（評価方法）
1	1 □□□	・ □□□□□□□□□□□□□□□□ □□	・ □□□□□□□□ 【 】

資料 3 「他教科との関連」の項目をいれた指導案様式

観点 3：

個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

3. ウェアラブルカメラの整備による授業の振り返り及び評価の改善・向上

本事業を受けて、小型のウェアラブルカメラ「GoPro」を新たに購入・整備した。「GoPro」には小型で防水機能が備わっている。そのため、従来撮影が困難だった場所や場面における児童生徒の様子を記録することが可能となった。具体的には、プール等水中での児童生徒の活動の様子や、黒板の上部に設置することで、児童生徒が注意を逸らすことなく、教師側の目線から児童生徒の様子に関する映像を記録することができるようになった。

具体的には、プール等水中での児童生徒の活動の様子や、黒板の上部に設置することで、児童生徒が注意を逸らすことなく、教師側の目線から児童生徒の様子に関する映像を記録することができるようになった

(資料 4)。一例として成果報告書では、知的高等部において、産業技術コースの職業と A 類型生活単元学習の授業で、ウェアラブルカメラで撮影した動画を用い、特に導入部分における教員と生徒のやり取りから、部研究のグループごとに生徒の変容を検証した。

その結果、生徒にとって、より主体的で対話的になる授業を目指していながら前時の振り返りや本時の説明が教員主導であったため、その後のグループ活動等で生徒の主体性や活発な対話につながっていないことが分かるなど、教員側の課題が明らかになった。



資料 4 ウェアラブルカメラ記録写真

観点 4：

障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

4-1. めいわ市（いち）による作業製品の販売会

研究協力校である明和特別支援学校では、学校名にちなみ、地域の方々に作業学習で作った木工製品などの製品を販売する「めいわ市」を年に 4 回行うことを通じて、地域社会の人々との交流を行っている。「めいわ市」に向けて、生徒は 14 班（各班 10 名程度）に分かれて準備を進める。その 1 つである菓子製造班は、地域の洋菓子店から、焼き菓子に関する助言や指導をもらい、それを製品にフィードバックしている。また、地域の特産物を使用した製品の開発を行い、準備段階から地域を意識した活動を取り入れた。

平成 28 年度からの取組として、上記の各作業班からリーダーを選出し、リーダー会議を設定するようになった。

当日は、高等部の生徒は、はっぴを着て、中学部の生徒は体操服で作業製品を販売した。

その中で中学部の生徒は、自分たちと高等部の生徒たちとの違いを意識し、高等部の生徒をモデルに作業製品を販売するなど、短期的なキャリアを意識する場面が設定されている。また、作業製品は準備していたレジ 5 台分に行列ができるほど好評で、販売成果が見えるため、生徒が大きな達成感を感じられる取組となっている。これらの取組は、生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながるだけでなく、生徒のキャリア教育を推進する取組だといえる。

4-2. 各学部における学校間交流

研究協力校では、全学部において地域の小・中・高等学校と学校間交流を行い、障害のない児童生徒との交流及び共同学習を設定している。小学部及び中学部では年に 2 回、近隣の小学校や中学校と交流を行っている。具体的には、特別活動や保健体育の授業等を題材に交流する対象学年を設定し双方の学校を訪問する形で進めている。

また、高等部（知的障害教育部門及び肢体不自由教育部門）では、2 校の一般高校と交流を行っている。知的障害教育部門では作業学習（栽培）や総合的な学習の時間で、肢体不自由教育部門では最初に研究協力校に相手先の生徒を招き、その後 10 月に行われる文化祭でのゲームの企画をしたり、模擬店販売を一緒に行ったりした。こうした交流及び共同学習を通じて、相手先の高等学校の生徒の中に介護職を目指す生徒が現れるようになった、といった成果が挙げられている。

観点 5 :

多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

5. 外部共同研究者との学部協議会を通じた授業の評価・改善

本事業を受けて、研究協力校では、外部の共同研究者を招聘して年間複数回の共同研究を行った。平成 29 年度における具体的な共同研究者として、知的障害教育部門小学部には岡山大学教授 佐藤暁氏、中学部及び高等部には国立特別支援教育総合研究所総括研究員（現神戸親和女子大学准教授） 武富博文氏を、肢体不自由教育部門高等部には日本体育大学教授 長沼俊夫氏を年間 1 回ずつ招き、研究や指導内容等への評価を受けた。

各学部で受けた助言をもとに、授業改善を進めることで、「思考力・判断力・表現力等」を高める授業改善につながった一方で、全ての教科のベースである国語科との関連や各教科のねらいを踏まえどの教科でどの内容を扱うか、教育課程の理解が必要との指摘があり、新たな課題も明らかになった。